

- H30年に国家戦略特区を活用して国内旅行業務取扱管理者資格及び地域限定の旅行業を取得し、旅行業者としてワンストップサービスの体制を構築。
- 国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、会員それぞれが積極的に行政機関が実施する事業を活用しカード決済システム、Wi-Fi環境、宿泊施設内の多言語表記等について受入体制を整備。

【地域の概要】



○ 主要産業は農林業と観光業。
○ 武家屋敷を中心とした重要伝統的建造物群保存地区があり、「みちのくの小京都」と呼ばれる歴史の町である。

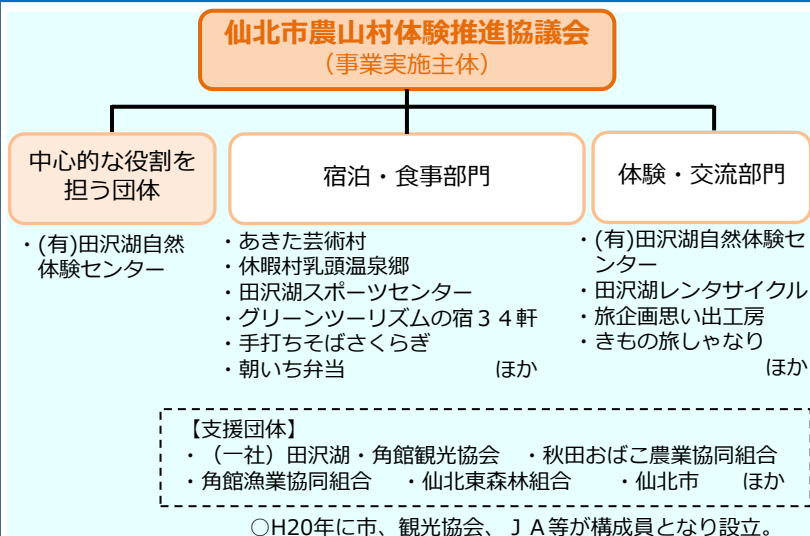


第13回オーライ！ニッポン大賞 受賞 (平成27年度)



第3回ディスカバー農山漁村の宝 フレンドシップ賞 受賞 (平成28年度)

【実施体制】



＜運営体制＞

- 地域限定の旅行業を取得しており、HP（英語版有り）から予約が可能なワンストップサービス体制を構築。
- 英語対応ができない宿泊施設の外国人旅行者との交流手段として、翻訳アプリをそれぞれ導入。
- 現在は、タイの大手旅行会社を初め様々な国の現地手配業務を行い、インバウンド受入対応強化に向けた取組を推進している。



日本語版HP



英語版HP



検索

農山村体験のススメ

【取組内容】

＜宿泊＞

- あきた芸術村、休暇村乳頭温泉郷、田沢湖スポーツセンターのほか農家民宿やペンション等のグリーンツーリズムの宿（34軒）で受入を実施。それぞれでの食事や体験も可能。



農家民宿 泰山堂



農家民宿 西の家



農家民宿 輝湖



休暇村乳頭温泉郷

＜誘客コンテンツ＞

- 田沢湖や秋田駒ヶ岳等の美しい自然を活かしたラフティング等のアクティビティ、角館の武家屋敷通りでの着物着付け体験等、地域の特色を活かした数多くの体験コンテンツを実施。

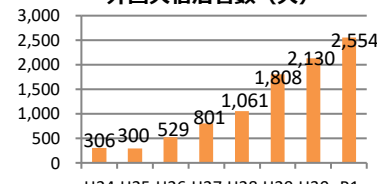


着物着付け体験

＜特徴的な取組＞

- 国際交流団体の受入れに加え、FITの受入れ数が急激に伸び、グリーンツーリズムの宿の外国人宿泊者数は年間2,500名（R1）を超える。
- 地域全体にWi-Fi環境、カード決済システム、多言語表記導入などの環境整備の必要性を理解してもらうための活動に注力し自発的な取り組みにつなげた。
- 国内外の個人旅行者の誘客拡大に向けて、高齢の受入農家の労力を軽減し、開業農家や泊食分離、アルベルゴ・ディフーズ（分散型ホテル）の考え方に基づく地域づくりを目指す。

外国人宿泊者数（人）



(出典) 農山漁村振興推進計画書



(一社)仙北市農山村体験推進協議会 (秋田県仙北市)

- 平成20年に市、観光協会、JA等が構成員となる仙北市農山村体験推進協議会を設立し、活動を一本化。
- 市役所内に農山村体験デザイン室を設置し、教育旅行を中心に受入環境整備、体験メニューの充実化。
- 平成24年以降、台湾を初めとする教育旅行の受入を行い、農家民宿等の外国人宿泊者数が年々増加している。

きっかけ Step 1 (S40~)

○わらび座が修学旅行の受入を開始、学校からの要望で周辺農家が農業体験を受入 (S45年頃)
 ○秋田国体開催時の宿泊施設として農家が民宿を開業、国体終了後はペンションや山荘とともにスキー修学旅行などを受入 (S46年頃)

Step 2 (H7~)

農家民宿の開業

●わらび座と農家民宿グループ等による教育旅行受け入れを実施していた農家の中から農家民宿が次々に開業。

※H21年以降は規制緩和による開業が増加。

Step 3 (H17~)

グリーン・ツーリズム推進組織の設立

●H20年、3つの受入団体、市、JA、観光協会などからなる仙北市農山村体験推進協議会を設立。体験を通しての農村振興を図る。

●受入環境の整備、体験メニューの充実を実施。

県・市補助金を活用し、受入関係者向け研修会の開催、PR資料作成等を実施。

Step 3 (H23~)

市における体制の強化

●H23年、市役所に教育旅行とグリーン・ツーリズムの担当部署として農山村体験デザイン室を設置。

●市の主導により活動の一本化が図られる。

(STEP3) 体験メニュー



取組成果

(取組成果)

(STEP 4) 国際教育旅行の受入



第13回オーライ! ニッポン大賞 受賞 (平成27年度)



ディスカバー農山漁村の宝(第3選定) フレンドシップ賞 受賞 (平成28年度)

(取組成果)

Step 4 (H24~)

国際教育旅行の受入

●H24年、仙北市と交流のあった台湾を中心に教育旅行の受入を開始。

●H26年、青年研修団の受け入れの依頼があり、東南アジア地域からの教育旅行が増加。

Step 5 (H30~)

協議会の新たなスタート

●H30年、国家戦略特区を活用して、旅行業務取扱管理者試験の緩和を実施。地域限定の旅行業を取得。旅行者としてワンストップサービスの提供を図り、地域のコーディネーター的な位置づけを目指す。

●民間企業との連携事業を実施し、積極的な個人旅行者の誘致を行う。

●ホームページ(日・英)の開設。宿泊や体験の予約受付を開始。FacebookやInstagramでの情報発信。

●一般社団法人となる。

団体旅行から
富裕層旅行へ

農家民宿等外国人受入数

(H24: 300人→H29: 1,808人
→H30: 2,130人→R1: 2,554人)

HPアクセス数

(H29: 0件→H30: 31,503件→R1: 62,723件)

FIT予約人数

(H29: 0人→H30: 178人→R1: 575人)